

静岡新聞 2026 年 5 月 6 日 付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

連休の前半、政府・日銀が大規模な為替市場での介入を行って注目を集めた。それまで1ドル160円を超えて円安になっていた円ドルレートは、一気に5円ほど円高方向に動いた。為替市場での介入とは、政府・日銀が手持ちの外貨準備を使ってドルを売って円を買うという行為である。市場で大量のドルが売られて円が買われるので、為替レートも円高方向に動くのだ。

もちろん、為替介入によって持続的な効果が期待できるわけではない。政府が保有する外貨準備にも限界がある。介入資金の限界を見越して、市場はまた円安方向に動くこともある。今回も、一度は155円台にまで円高に動いた円ドルレートも、その後少し円安の方に動いている。連休明けに市場がどのように動くの

過度な円安 政府がメッセージ

か注目しなくてはいけない。ただ、今回の介入で注目すべきは、今の円安は容認できないほどの状況であると政府によってメッセージが出されたことだ。「円安は容認できない」と担当者が発言するだけでは、政府のメッセージとしては弱い。今回は、財務大臣や財務官などの責任者が「円安は容認できないので断固たる措置をとる」と発言した直後の介入である。それだけ市場への強いメッセージとなったはずだ。

過去の円ドルレートの動きを見ても、160円というのは際立った円安(ドル高)水準である。行き過ぎた円安を容認するのではなく、円安からの転換を促すという意味でも、160円時点での介入は妥当であると考えられる。

円安が日本にとって好ましいものであるかどうかは、立場によって違う。円安によって輸入物価が高くなることは、日本にとって大きな負担である。一方で、円安によって輸出企業がメリットを受けられていることも事実だ。ただ、明らかに行き過ぎた円安であることで、マイナス面の影響の方が大きいと考える人が増えているはずだ。

特にインフレとの関わりで円安の及ぼす悪影響は大き

い。円安の下では、海外から輸入する原油や食料の価格が高くなる。この輸入物価の上昇が日本のインフレを悪化させることが懸念される。インフレはこうした事態をさらに悪化させることになりかねない。上昇を続ける原油や石油製品の価格が、円安によってさらに上がりかねないのだ。

足元で続いていた円安の流れは、インフレ情勢と無関係ではない。石油価格が上がることで日本の輸入額が膨れ上がり、そのために必要なドル資金への需要がさらに円安を促す。円安が進めば、輸入額はさらに膨れ上がる。そうした悪循環が起きることが懸念される。

冒頭でも述べたように、為替介入によって為替レートを大きく変えることは難しい。ただ、160円は明らかに行き過ぎた円安である。市場もそれは認識しているはずだ。

政府が「行き過ぎた円安は容認できない」というメッセージをしつかりと出すことができれば、為替レートの市場における流れを変えられることができるかもしれない。今後予想される金利上昇の動きも含めて、過度な円安が是正される方向に動いていくことを期待したい。